

長年の貢献に感謝し 4氏に市民表彰

平成17年度枕崎市民表彰受賞者として、社会福祉部門において茅野一二氏、松野下テル子氏、丸谷昭子氏、また産業経済部門において福元末男氏が選ばれました。

市制施行記念日である9月1日、授賞式が地場産業振興センターで行われ、多数の出席者が4氏の長年の功労を労いました。

【社会福祉部門】

茅野さん、松野下さん、丸谷さんは、長年にわたり枕崎市民生委員児童委員として常に地域の実情を把握し、様々な生活上の相談や生活支援などの活動に献身的に取り組み、市民が安心して暮らせる地域社会づくりに大きく貢献されました。

【産業経済部門】

福元さんは、長年にわたり枕崎市茶業協議会の中心的役割を担われ、本市茶業を県下でも有数の優良産地に発展させるとともに、若い農業後継者の育成確保に尽力するなど本市農業の振興に大きく貢献されました。



写真左から
社会福祉部門 茅野一二氏 (76歳) 茅野
社会福祉部門 松野下テル子氏 (77歳) 旭町
社会福祉部門 丸谷昭子氏 (71歳) 宮町
産業経済部門 福元末男氏 (73歳) 国見町



威勢のいいかけ声が 会場に鳴り響く

～さつま鯉産地入札即売会～

第60回さつま鯉産地入札即売会が9月16日、枕崎水産加工業協同組合入札会場で開催されました。

枕崎は全国生産量の約4割を占める日本一の生産地。市内の35業者が出品し、全国から集まった58業者の仲買人らが、コンペアーで選ばれてくるかつお節に次々と値を付けていきました。

「かつお節類(仕上げ節～荒節)は生産量の増伸に伴い、昨年よりも約17% (10%) 増量の出品で、価格的にはまずまず。さば節類は昨年より12% (8%) の増加だが、枯割さば節はキロ50円、枯丸サバ節は100円欲しかった」と加工組合は総評しました。

最高級の仕上げ節のうち本節はキロ当たり平均1,696円(対前年比228円安)、亀節は1,442円(同46円高)。その他を合わせた売上総額は約3億3千万円(同3,137万円増)。



昭和30年ごろ 折口通り

『古い写真』 を募集します

古い写真をお持ちではないですか？
 古い郷土の姿や風俗を後世に正しく伝えるために、古い写真をデジタル記録し、ホームページなどで公開したいと考えています。お手元に枕崎の歴史を検証できる古い写真がありましたら、お貸し頂けますようお願いいたします。
連絡先 文化課 〒898-0051 枕崎市中央町184
 TEL72-0170 内線815
 E-mail:bunka@city.makurazaki.kagoshima.jp

パネルディスカッション で出された主な意見



コーディネーター
田中栄治 氏
 (地域交流センター理事長)

健康について考えたり実践したりする空間が必要。枕崎に健康の駅研究会ができるといいと思う。



パネラー
郷田美紀子 氏
 (薬膳茶房オーガニックごうだ代表)

食に関心のある枕崎から発するものは、安心安全をテーマにしたものでなければならない。旬のものを使ってバランスをとることが重要



パネラー
林のり子 氏
 (料理研究家)

イメージものをセットにして、伝えていくことが大事。食べ物に物語が必要で、それがあってこそ豊かな食を楽しむことができる。



パネラー
本田 節 氏
 (国土交通省地域振興アドバイザー)

人間一人では感動できないし、人と人が交流することによって、可能性や地域の資源を再発見することができる。



パネラー
新屋敷咲子 氏
 (市内で弁当店を運営)

皆が交流できる場所があればいいなと思い弁当屋を始めた。試行錯誤の連続だが、今日の話で、胸をはっていいのだという気持ちになった。



「食」と「健康」で ふるさとに活力を

～食と健康の交流ビジネス研修会～

「食と健康の交流ビジネス研修会」が9月13日、南薩地域地場産業振興センターで開催され、市民ら約150人が参加しました。
 この研修会は、市民がいきいきと働ける、魅力ある地域を体感できる、人と物の交流が盛んな都市づくりの担い手の育成を目的とした「地域再生等担い手育成支援事業」の一環として行われたもの。
 最初に、参加者が3つの部会に分かれ「グリーンッ

ーリズム等交流事業事例研究研修会」が行われました。それぞれ「熟年者が参加しやすい交流型施設等のあり方」「熟年者が楽しめる体験プログラムのあり方」「熟年者が楽しめるものなしと食のあり方」をテーマに、講師が取り組んでいる事業の事例を学び、意見交換を行いました。
 パネルディスカッションは、部会の3人の講師と、新屋敷咲子氏(西本町)がパネラーとして参加し、コ

ーディネーターの田中栄治氏の進行のもと行われました。「食と健康の交流ビジネスについて」をテーマに、健康という要素を取り入れた食のアピールと、高齢者がいきいきと働ける交流施設の必要性について意見交換が行われました。
 最後に、コーディネーターの田中氏から、人々の交流拠点としての「健康の駅」設置の提案が行われ、参加者から「取り組んでみたい」と応じる場面もありました。